

■ ザ・シンポジウムみなと in 留萌

『開港 80 周年～留萌港の未来を考える～』をテーマに「ザ・シンポジウムみなと in 留萌」が 11 月 7 日(火)、約 200 名が参加して留萌市中央公民館において開催しました。

はじめに主催者代表として、「ザ・シンポジウムみなと実行委員会」の川合紀章委員長、次に開催地代表として、高橋定敏留萌市長によるご挨拶をいただきました。

その後、記念講演として、留萌市教育委員会生涯学習課の福士廣志氏から「留萌築港と五十嵐億太郎」、基調講演として、料理研究家の森崎友紀氏から「地元食材を活かしたみなとまちづくり」との演題でご講演いただきました。

福士氏は「留萌港建設の父」と呼ばれる五十嵐億太郎の生涯について講演し、留萌港がどのような経緯で建設され、どのような情熱をもって造られたのか知ってもらい、今後の留萌のために活用してもらいたいこ



開催挨拶 川合実行委員長



開催地代表挨拶 高橋留萌市長



記念講演 留萌市教育委員会 福士廣志氏



基調講演 料理研究家 森崎友紀氏

と、また、億太郎が港と鉄道建設に情熱を注ぎ、彼の情熱のもとに市民が暮らしていること、将来のビジョン及び情熱を持つことの重要性を話されました。

森崎氏は管理栄養士になった経緯をはじめ、留萌名産の「数の子」の誤解(魚卵であるため)を解く必要があること、また、留萌を PR するため、数の子、留萌米、ルルロッソ(稀少な超硬質の小麦を原料とした商品(原料小麦粉、生パスタ)の名称。アイヌ語で留萌を意味する「ルルモッペ」、留萌の夕日をイメージした赤のイタリア語「ロッソ」が由来)を全国にアピールすることが必要との講演を行いました。

引き続き、「食と観光を通じた留萌港の新たな取組について」というテーマで、コーディネーター慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科特任教授 林 美香子氏、留萌市長 高橋定敏氏、(株)エフエムもえる代表取締役社長 佐藤太紀氏、近畿大学農学部食品栄養学科准教授 川西正子氏、井原水産(株)取締役営業副本部長 高田裕子氏によるパネルディスカッションが行われました。

パネルディスカッションでは留萌の基幹産業である、数の子について、「数の子条例」の制定、「数の子授業」「数の子プロジェクト」の紹介をはじめ、数の子を全国に情報発信することが重要との発言がありました。

また、観光拠点、情報発信及び収集の場としてみなとオアシスへの登録等、港を活用したまちづくりについての提言もありました。

基調講演、パネルディスカッションにつきましては「海と港」第 36 号に掲載します。



パネルディスカッション